

## テーマ1：自ら学ぶ力と豊かな心を持ち、たくましく生きるこどもの育成

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちのために、「問題解決能力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」を身に付けさせていくとともに、「コミュニケーション能力の向上」や「人間関係力の育成」を重視した取組をさらに推進していくため、学校教育における大きな課題である「段差のない教育」、「途切れのない支援」を充実させることに加え、地域や家庭の潜在的な教育力を掘り起こすことにより、協働して子どもたちの育成にあたるような体制を全市的に整えていく。

また、児童生徒が安全で安心な学習環境の下で、快適な学校生活を過ごすため、施設の改善・充実を図る。

## 現状と課題

平成21年度全国学力・学習状況調査によると、小学校の国語・算数、中学校の国語・数学において、知識・技能の定着については一部課題が見られるもののある程度満足できる結果であるが、活用する力については多くの課題が見られる。また、平成21年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、体力や運動能力は全国に比べて全般的に低い。

平成21年度の児童生徒アンケートによると、「学校生活は楽しい。いじめは絶対にいけない」と考える子どもは89%と高くなってきており、人権意識の向上が見られる。

しかし、一方では不登校率は全国に比べてやや高く、近年の不登校児童生徒数の推移を見ると、中1では大幅に増加し小6の約3倍となっている。さらに、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が増加する傾向にあり、一人一人の教育的なニーズに応じた支援を行っていく必要がある。

四日市版コミュニティスクールの指定、幼稚園及び小・中学校での学校づくり協力者会議の設置、学校HPの充実などによる積極的な情報公開、学校ボランティアの活動等により、地域に開かれた学校づくりへの体制が整ってきているが、今後、一層の整備を行っていく必要がある。

さらに、真の学力を育て、豊かな人間性を養う特色ある教育を進めるため、実践的な研究を進めていく必要がある。

また、学校施設については、これまで、昭和30年代に建設された校舎について、順次改築を実施してきたが、現在においても昭和30年代建設（一部40年代を含む）で、ベランダ形式などの理由で改築によらなければ、教育施設環境が十分に確保できない校舎が存在する。また、他校舎についても築後30年を経過する校舎が半数を超える状況にあり、時代に即した機能追加と適切な維持管理による教育施設環境の確保が求められている。

## リーディングプロジェクト

(段差のない保幼小中の一貫教育の推進)

小学校入学時及び中学校進学時における環境変化により児童・生徒が学校不  
適応等を起こす問題(小1プロブレムや中1ギャップ)に取り組む必要がある。  
そのため、学習のねらいを明確にした保育園・幼稚園・小中学校の一貫した教  
育計画を作成し、系統性・連続性のある教育を目指す。

具体的には、保育園とも連携を図りながら、幼稚園と小学校低学年との交流、  
中学校との連携による小学校高学年における教科担任制を進める。また、就学  
前から義務教育終了までを見通し、発育・発達に応じたキャリア教育の推進、  
道徳・人権教育の充実、体力向上の取組等に努める。

さらに、児童・生徒が新しい学校生活に円滑に適應できる体制を整えるため、  
小中学校1年生30人学級等、少人数学級の拡充を図る。

(途切れのない生活指導・支援)

特別な支援を必要とする子どもの能力や可能性を最大限に伸ばすため、一人  
一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を行う必要がある。そのため  
に、「相談支援ファイル」を作成し、関係機関が連携・協働し、乳幼児期から  
中学校卒業後までを見通した相談・支援体制を強化する。また、自立し、社会  
参加するための基礎となる力を育成するにあたり、プロジェクトU-8事業(注  
1)や四日市早期支援ネットワーク(YESnet)(注2)の充実、中学校における  
通級指導教室(注3)を設置する。

(注1)プロジェクトU-8事業

言葉に対する課題や対人関係・社会性の課題、学習上の基礎的な能力に関する課題  
のある4歳児から小学校2年生までの子どもに対して、早期に対応し、自己肯定感  
を持って小学校へ入学できることや小学校生活を楽しく過ごすことができるように支援  
する。教育委員会・福祉部・健康部が連携して「途切れのない支援」を目指す。

(注2)四日市早期支援ネットワーク(YESnet)

統合失調症などの子どもの心の病気の早期発見・早期支援のために、教育委員会・  
保健所・医療機関がネットワークを組んだ事業

(注3)通級指導教室

話し言葉に障害があったり、学校生活への適應が難しかったりする通常の学級に在  
籍する児童が対象。在籍校から週1回程度通級し、言葉の障害を取り除いたり軽くし  
たりするための指導(言語通級教室)や、落ち着いて学習する力やうまく人間関係を  
結ぶ力を身につけるための指導(情緒通級教室)を受けて、積極的な生活態度・学習  
態度や生き生きとした楽しい学校生活が送れるようにする。

さらに、不登校、いじめ等、問題行動の未然防止や早期発見・解決に向け、  
保・幼・小中学校が情報共有し、連携して生徒指導を行う体制づくりを進める  
とともに、専門的な知識や経験を有する臨床心理士等をスクールカウンセラー

として配置する学校の拡充を進め、教育相談体制の充実を図る。

なお、高校を中退する生徒が増えている中で、生徒が再度学業に就けるよう相談及び情報提供に努める。

#### （四日市版コミュニティスクールの推進）

豊富な知識・技術・経験等を持つ保護者・地域・企業等の方々が授業等に参加することを通して教育内容を充実させたり、基本的な生活習慣の確立など生活指導において家庭と連携を強めたりするなど、学校・保護者・地域が一体となって子どもを育てていく取組を進める。このため、現在の「学校づくり協力者会議」を発展させて、保護者や地域の方々などが主体的に学校運営に参画し、その意見を迅速かつ的確に学校経営に反映させるとともに、四日市独自の特色ある教育を推進することができるよう「四日市版コミュニティスクール」の推進を図る。

#### （新たな教育課題に対応するための実践的研究）

「段差のない教育」「途切れのない支援」「家庭・地域と協働」といった3つの柱で教育を進め、教育課題の解決を図るとともに、新たな教育施策を展開するための実践的な研究を進めていく。

また、新たに取り組む教育施策に対応するための研究開発校を設置していく。

#### （教育施設環境の確保）

児童生徒数の動向を踏まえながら、昭和30年代校舎など改築を必要とする校舎を計画的に改築するとともに、他の校舎についても、計画的修繕により長寿命化を図り、ニーズにあった新たな機能や適切な維持管理による教育施設環境の確保に努める。

## テーマ2：四日市ならではの文化の情報発信と活動の場づくり

ものづくり、定期市、港など十分理解されていない文化資源を市民とともに発掘、再認識することにより、誇りが持てるまちづくりを進めるとともに、四日市ならではの文化を、観光や商業などと連動させながら、情報発信する。

また、市民が気軽に文化に触れ合うことのできる機会、文化活動の場を提供する。

### 現状と課題

本市では、祭りや伝統芸能、文化財、市民の文化活動などを貴重な四日市の文化として捉え、保全・育成を行ってきた。国・県・市の指定あるいは登録文化財は109件あり、この中には、大四日市まつりの郷土文化財行列でも有名な大入道や鯨船、あるいは、四日市の近代化産業遺産でもある末広橋梁や潮吹き防波堤なども含まれている。

これらはどれをとっても、四日市のまちの成り立ちや人びとの暮らしぶりを伝えるものであり、文化財に指定あるいは登録されてはいないものの、大切に保存・伝承されてきたものなども多くある。

こういった数多くの文化を効果的に市民に知らせることが不十分であったため、本市の文化を市民が共有し、愛着と誇りと自信を持って語れるような取り組みが必要である。

一方、地区市民センターにおいて、多くの文化活動が行われているが、これらは地域住民にとって最も身近な場で文化活動に参加できるものであり、ひいては地域活動に携わる人材育成につながることを期待できる。

また、文化会館の例を見れば、その利用率は大変高く(11月平均利用率93%)、多くの市民が文化活動等に利用されている半面、施設予約が困難な状況にあるなど、文化活動の場が不足している実態があり、今後遊休化される公共施設も有効に活用しながら、文化活動の場を確保していく必要がある。

さらに、若者の社会とのコミュニケーションが希薄になる中で、高校生などの若者が集い、若者同士が語り合うことができる場、または彼らが文化活動を行うことができる場が必要となっている。

### リーディングプロジェクト

(四日市文化の情報発信の戦略づくり)

四日市の文化を内外に継続的に発信するため、本市の持つ豊富な文化財・文化資源について、市民、市民活動団体、事業者など多様な主体の参加と協働・連携の下、市民誰もが再認識し、共有できるシステムづくりを進める。

その上で効果的な情報発信の仕組みを、観光や産業など他分野と連携する形で構築し、内外へ向け、市民や事業者と協働してプロモーション活動を推進するとともに、さらに博物館などの展示にも積極的に反映させていく。

(文化活動の場づくり)

市民ニーズにマッチした文化振興施策を推進するほか、文化会館などの施設を補完するため、今後、遊休化が予想される公共施設(学校施設)の活用についても視野に入れつつ、新たな芸術、文化活動の場づくりを検討する。

また、身近な文化活動の場については、市民の多様で活発な活動がますますさかんになるよう、市民が民間の文化施設を活用するにあたっての支援策をより充実させるとともに、中心市街地をはじめとして、市民や民間事業者の熱意や協力による「文化の駅」の設置など、文化活動の場づくりを充実する。また、各地域においては、地区市民センターなどを拠点に、学校や企業などとの地域内連携を図るなど、多様な文化活動の場の充実を進める。

「文化の駅」とは、中心市街地の空き店舗を活用する「メインステーション」や地域の郵便局や銀行などを活用する「ローカルステーション」により、人々が集い、文化活動の発表、体験や交流のできる場のこと。

(四日市ならではの若者と地域の交流の場「若者文化ステーション」の展開)

中心市街地において、空き店舗などを活用して実業系高校などの生徒を中心に文化活動等の発表の場としての「若者文化ステーション」を創出し、「すわ公園交流館」との連携も図っていく。

### テーマ3：スポーツを通じた元気なまちづくりの推進

スポーツは健康増進や生活を楽しむ豊かなものにするだけでなく市民に夢や感動を与えるとともに、児童・生徒の健全な発達を促し豊かな人間性や生きる力を培っていく面で必要な役割を担っていることから、「地域スポーツ」「競技スポーツ」「学校体育・スポーツ」についてバランスよく振興を図るとともに、必要な施設整備を進め、誰もがスポーツのできる機会を提供する。

#### 現状と課題

総合型地域スポーツクラブについては、平成22年度内部地区において設立が予定され、6つの総合型地域スポーツクラブとなる。会員数が減少しているクラブや、利用施設が不足しているクラブもあるが、今後、既存クラブの維持発展を図る上でも複数地区をまたぐ広域的なスポーツクラブの運営についても検討が必要である。

##### 会員数合計

(保々スポーツクラブ・スポーツクラブさんさん・ビバ橋北(特)楠スポーツクラブ・(特)四日市ウェルネス倶楽部)

H21 3,126人 H20 3,207人 H19 2,974人

地域におけるスポーツの振興を図るため、体育指導委員への研修を実施しているが、今後全市的な取組として、スポーツレベルにあった指導者の育成も必要である。

中央緑地公園運動施設、霞ヶ浦緑地公園運動施設は、昭和40年代に整備され約40年経過し老朽化が進んでいる。その他単体の運動施設においても老朽化が進んでおり、今後効率的な施設改修を必要とする。

#### 【四日市市体育協会加盟団体数・人数】

	団体数	人数
平成19年度	1,118	24,051
平成20年度	1,145	24,378

#### リーディングプロジェクト

(市内外に情報発信できるような、スポーツイベントの実施及び誘致)

市民がスポーツを通して、「元気な四日市」を実感できるよう、例えば、トップアスリートによる各種スポーツ教室の実施、プロスポーツ公式戦の誘致、市民との協働により楽しみながら実施できるスポーツ大会など、市内外に情報発信できる魅力的な事業を実施する。また、生涯を通じ高齢スポーツが楽しめるよう、若い世代も含めた大会やイベントなどを実施する。

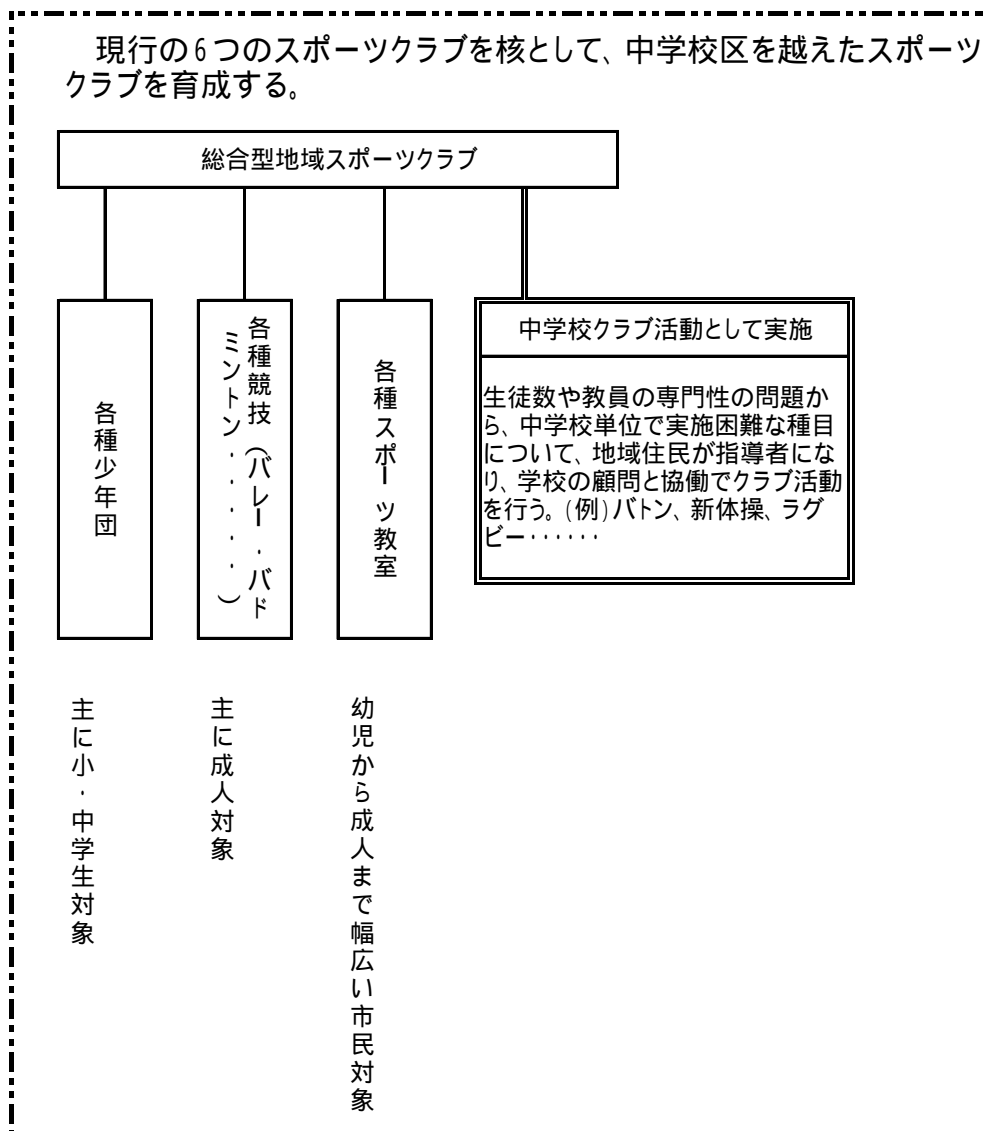
(地域ニーズにあったスポーツの振興)

地域スポーツを推進するため、総合型地域スポーツクラブについても、複数地区にまたがる広域化を図り、学校施設等の活用可能性をより一層高めていく。また、自主自立の事業運営ができるよう様々な支援方策を検討する。

(効率的・効果的な施設整備)

施設の充実については、既存施設の整備や効率的な利用の促進を図るとともに、現在の需要に対応できない競技種目については、改修等も選択と集中により着実に実施していく。

四日市版総合型地域スポーツクラブ模式図



#### テーマ4：コミュニティの維持・充実と生涯学習の推進

自治会等の地縁団体は、福祉や防災、防犯など地域力が求められる取組を行う上で極めて重要であり、今後とも維持・充実を図る。また、自主的な活動を行う市民活動団体の育成を図ることも重要である。

さらに、このような地縁団体や市民活動団体の人材育成に向けて、生涯学習をより一層充実し、市民力や地域力の向上を図る。

#### 現状と課題

本市では、23の地区市民センター及び楠総合支所を基本に、その地区内において、地縁団体（自治会、老人会など）が中心となって、住民相互の支え合いにより、地域福祉や防犯・防災などの各種取組を行っている。

しかし、そうした地域コミュニティも核家族化や高齢化が進み、地域コミュニティを支える機能を維持・向上させていくことが大きな課題となっている。

また、少子高齢社会を迎え、多様化かつ複雑化する地域課題に対応していくために、NPO、ボランティアといった自主的な活動を行う市民活動団体の育成も求められている。このような市民活動団体には文化やスポーツ、多文化共生など様々な分野があり、生涯学習と十分に連携を図りながら育成していくことが重要である。

生涯学習に関する市民の活動は多様であり活発である。誰もが学びたいと思ったときに学習できるような環境を整備する必要がある。

生涯学習の重要な場である図書館も、過去3ヵ年（平成18年度から20年度）に実施された市政アンケートでは、期待や要望がたくさん寄せられている。こういった市民の多様化・高度化するニーズに迅速かつ的確に対応するため、既存の図書館サービスの充実はもとより、新たなサービスの展開に積極的に取り組む必要がある。

同時に、学校図書館や他の公立図書館との連携強化を視野に入れ、本市の図書館としてふさわしいものとして機能強化を図る必要がある。

#### リーディングプロジェクト

（地縁団体の維持・拡充）

地縁団体を維持・拡充していくため、新たな担い手の育成や活性化のための支援策を推進する。また、市民が地域活動へ積極的に参加するよう意識の醸成などに取り組むとともに、市内在住の外国人が共に地域の構成員としてまちづくりに参画していけるよう取り組んでいく。

さらに、地区市民センターは地域社会づくりを進めるにあたり重要な拠点であり、地域活動充実のために必要な機能について検討していく。



（生涯学習機会の充実と市民活動団体の育成）

生涯学習については、若者も含め市民のニーズにあった事業を展開する必要があり、市民大学のようにNPO、市民活動団体等様々な主体が役割を担える仕組みを作っていく。また、各地区市民センターにおいては、あさけプラザ、なやプラザ等各施設で開催されている各種事業など、全市の情報を一元的に集約しながら、発信する取組を強化していく。

こういった生涯学習活動に多くの市民が参加することで、生涯学習の場に出会った市民による自主的な市民活動のきっかけづくりを行うとともに、各活動分野に対して行政の各部局が積極的に関わるなど、市民活動を活発化し、市民力や地域力の向上につなげていく。

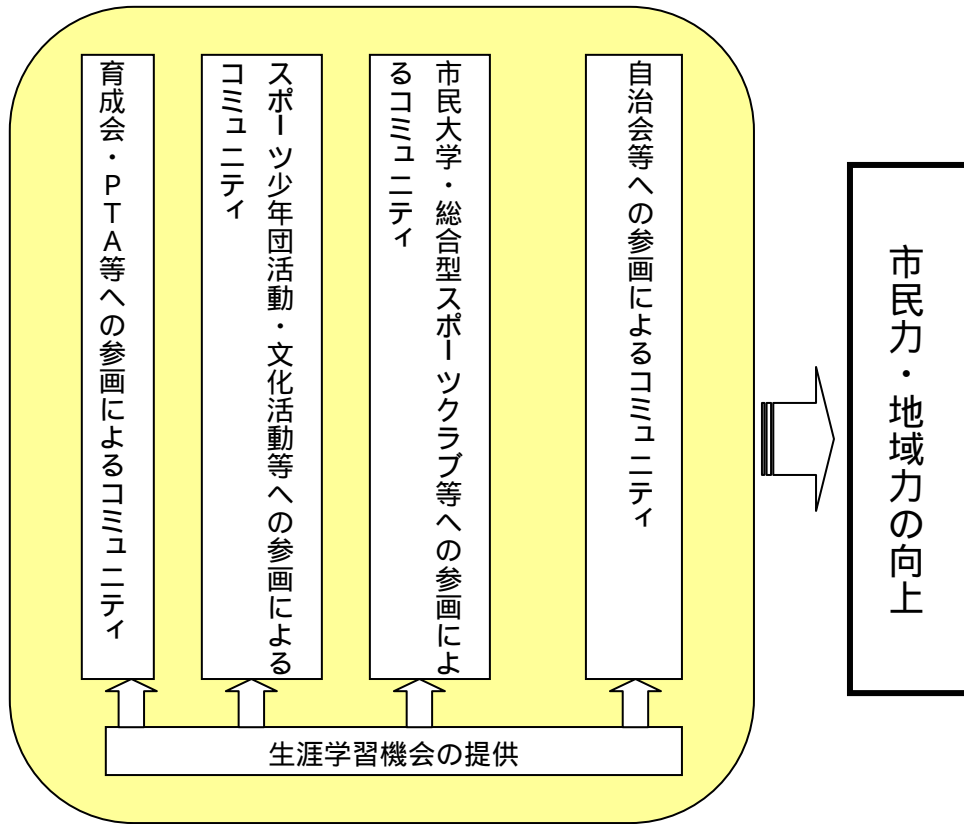
（多機能複合型の図書館づくり）

市立図書館、あさけプラザ図書館、楠公民館図書室の3館について、図書館本来の資料・情報の提供機能を充実しつつ、それぞれの図書館の特性や周辺環境にあわせて、機能強化を図る。例えば、あさけプラザ図書館や楠公民館図書室は、本で学んだことを実践できる場が施設内外にあることから（スポーツ施設、調理施設、美術室や陶芸室など）これらを活用し特徴的な図書館にしていくなど3館の役割分担を行うとともに、新たな形で市民ニーズに合わせた更なる機能向上を図り、生涯学習活動の場としてより一層充実していく。

また、高齢社会において生涯学習を促進する観点から、身近に図書の貸し出しサービスを受けることのできる自動車文庫について、その機能の充実を検討する。

なお、広域行政の観点から菰野町・朝日町・川越町等の図書館も含めた広域ネットワークを強くPRし、利用を促進する。

### 市民と地域とのかかわり模式図



### 多機能・複合型の図書館の概念図

